

Webを支える情報通信技術 (6) Webサーバの構築 つづき

情報基盤センター
佐藤周行・中山雅哉・西村健

1. はじめに

前回までで各自で設定ファイルを修正した Apache Web サーバを起動することに成功したわけであるが、表示されるのは既定のコンテンツであった。「Webサーバの構築」演習の最後として自分が作成したコンテンツの公開方法を見てみよう。

2. 自分が立ち上げた Web サーバ上に自由にコンテンツを作成してみよう

例によって設定ファイル(httpd.conf)に変更を加える。

```
< DocumentRoot "/Library/WebServer/Documents"  
---  
> DocumentRoot "/home02/utnish/httpd/Documents"
```

そして指定した通りに作業ディレクトリに Documents ディレクトリを作成¹し、その中にコンテンツを格納することにする。

コンテンツの作成 (HTML ファイルの作成) は、これまでのように (HTML の仕様を参照しつつ) テキストエディットで HTML ソースをゴリゴリと作成しても良いが、テキストエディットには簡易の HTML ファイル作成機能が付いているのでこれを使うと楽である。

1. テキストエディットを起動し、「ファイル」メニューから「新規」を選択する。
2. ウィンドウ上部にルーラー (目盛り) が表示されていれば既に HTML ファイルを作成できる状態になっている。そうでなければ、「フォーマット」メニューから「リッチテキストにする」を選択すると HTML ファイルを作成できる状態になる。
3. 文字を入力する。「フォーマット」「フォント」から文字の大きさや色を変えたりできる。
4. 「ファイル」メニューの「保存」を選択し、名前を「index.html」、さきほど作成した「Documents」ディレクトリを指定し、フォーマットを「HTML」として保存する。
5. 一旦ウィンドウを閉じ、「ファイル」メニューの「開く」から今作成したファイルを選択してソースを見ることもできる。ファイルを指定するときに「標準テキストのエンコーディング」を「Unicode(UTF-8)」、「リッチテキストのコマンドを無視する」

¹ 作業ディレクトリを作成した時と同様の操作である。Finder で作業ディレクトリを表示し「ファイル」メニューの「新規フォルダ」で作成できる。名称を「Documents」に変更するのを忘れないように。

にチェックを入れておくことを忘れないこと。

6. 5.で「リッチテキストのコマンドを無視する」にチェックを入れないと、再度編集することができる。

上記の変更ができたら Apache を起動してみよう。今作成した HTML ファイルが表示されるようになれば成功である。

```
httpd/apachectl start
```

場合によっては以下の行の変更も必要かもしれない。

```
< <Directory "/Library/WebServer/Documents">
---
> <Directory "/home02/utnish/httpd/Documents">
```

以上で「Web サーバの構築」演習は終了である。